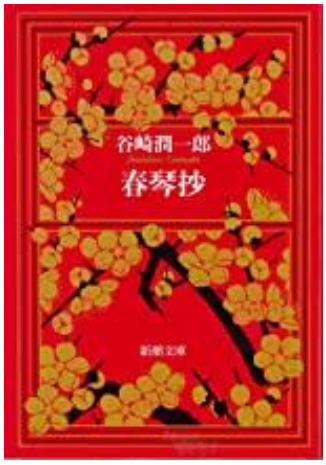
図書館通信　１・２月号

宇東図書委員会

今月号では、国語の女性の先生方から「お年玉」＆「バレンタインプレゼント」！読んでみてね♡

川端恵美先生より　『春琴抄』　谷崎潤一郎　著



盲目の三味線奏者春琴の顔に熱湯を浴びせたのは誰だ？春琴の美貌が目当てで弟子になっていた名家の息子利太郎、丁稚の佐助、春琴本人と様々に考えられるが、客観的には決して著されていない。……「陰影礼賛」と古き良き日本を愛した谷崎潤一郎の文章をぜひ読んでみてほしい。

全 10 冊、川端先生のおすすめ本を図書館にて紹介中です！

『桜の森の満開の下』坂口安吾　『眠れる美女』川端康成　『食堂かたつむり』小川糸
『世界の終わりとハードボイルドワンダーランド』村上春樹　『失はれる物語』乙一
『燃えよ剣』司馬遼太郎　『むらさきのスカートの女』今村夏子　『金閣寺』三島由紀夫
『下妻物語』嶽本野ばら

渡部陽子先生より　『海と毒薬』　遠藤周作　著

戦後末期の恐るべき出来事。――九州の大学付属病院における生体解剖事件を小説化したものだが、いたずらにショッキングな「事件小説」などではない。日本人の心の弱さと集合体としての罪の意識の不在…。読者は得体の知れない凄みに衝撃を受けることになると思う。筆者の遠藤氏の念頭から離れることのなかったのは「日本人とはいかなる人間か」という問いだったと言われている。『沈黙』、『留学』、『白い人・黄色い人』、『母なるもの』…『深い河』と読み進めていくなかでも、この１冊が私の倫理的「問い」の原風景になっていると実感している。

全 10 冊、渡部先生のおすすめ本を図書館にて紹介中です！

『迷路』野上弥生子　『手の変幻』清岡卓行　『緋色の研究』アーサー・コナン・ドイル　『スプートニクの恋人』村上春樹
『中国行きのスロウ・ボート』村上春樹　『私とは何か「個人」から「分人」へ』平野啓一郎
『海と真珠』梅田みか　『絶望を生きる哲学　池田晶子の言葉』池田晶子　『脳のなかの文学』茂木健一郎

吉良千寿先生より　『獣の奏者』　上橋菜穂子　著

上橋さんの小説の舞台となるのは、たいていアジアでもヨーロッパでもない架空の風土。数奇な運命をたどる女性が主人公のものが多い。エリンもそんな少女だ。獣と心を通わせることができる彼女の生き様を描いた長編は、読み応えあり。特に『外伝　刹那』は同性として共感できる。

全 10 冊、吉良先生のおすすめ本を図書館にて紹介中です！

『Re-born はじまりの一歩』伊坂幸太郎ほか　『ふたつのしるし』宮下奈都　『家守奇譚』梨木香歩
『だれも知らない小さな国』佐藤さとる　『ギヴァー　記憶を注ぐ者』ロイス・ローリー　『悩む力』姜尚中
『旅をする木』星野道夫　『蒼穹の昴』浅田次郎　『夜と霧』ヴィクトール・Ｅ・フランクル